

目次

金刀比羅宮 12棟 重要文化財指定に	1	支部だより 文化財保護協会臨地研修会に参加して	5
文化財保護協会を語る⑥	2-3	歴史と伝統の息づく旧金毘羅大芝居	6-7
わが町の文化財【第42回】小豆島農村歌舞伎	4	こんな文化財調査をやってきた⑥	8

「金刀比羅宮 12棟」が令和6年8月15日重要文化財指定に

12棟:本宮(本殿、中殿、拝殿)、本宮神饌殿、本宮直所、別宮(本殿、中殿、拝殿)、別宮神饌殿、別宮直所、祓除殿、南渡殿、神楽殿、御炊舎、神輿庫、神庫

金刀比羅宮は、明治初頭の神仏分離により神社として再興し、近世に建立された建造物の改廃や新社殿の造営を進めるなど境内の大規模な再編を行った。本宮を中心とする社殿は、彩色塗装や彫刻繰形など仏教的な建築表現の払拭を模索し新造された。本宮は上質のヒノキ材を用い、壁面や天井に優美な桜樹を表現した木地蒔絵を施した複合社殿で、伝統意匠を極力排した独自の細部意匠を木組や手挟等に見せ、明治初頭における神仏分離への対応を示す貴重な事例である。また、本宮の本殿・中殿・拝殿は後方へと床高を上

げていくことで格式を高め、破風を多用した複雑な屋根は荘厳かつ優美である。別宮も本宮に準じた高い格式を有し、神饌殿や直所など附属屋を伴う構成も本宮と同様である。さらに、両宮を長い渡廊下(南渡殿)が繋ぐ配置は当宮に独特の形式で、同時期に新造・改築された神楽殿や御炊舎、神輿庫、神庫など一連の施設とともに優れた社頭景観を呈する。これら社殿群は、明治新政府による宗教政策のもと寺院から神社へと組織を再編する中で変容した境内の様相を現在に伝えており、歴史的に価値が高い。(石田 真弥)



金刀比羅宮鳥瞰写真 撮影:田村収

金毘羅庶民信仰資料調査事業(1)

これまで香川県教育委員会による調査事業を取り上げてきたが、ここでは金刀比羅宮による金毘羅庶民信仰資料調査事業を取り上げたい。本調査は昭和52年から始まり、昭和54年2月、文化審議会での好評を得て「金毘羅庶民信仰資料」が重要有形民俗文化財の指定となった。調査報告書『金毘羅庶民信仰資料集』は、わずか約2年の調査期間において、宮本常一門下の武蔵野美術大学生活文化研究会や瀬戸内海歴史民俗資料館職員によって、膨大な資料の実測・作図が行われた調査成果である。

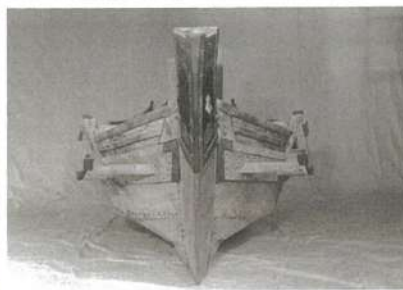
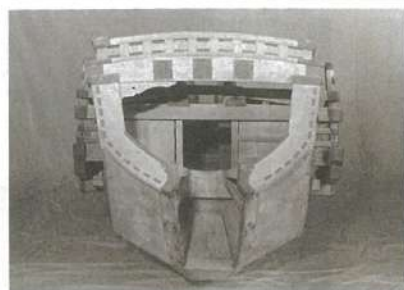
さて、指定を受けた金毘羅庶民信仰資料は、近世以来の全国各地の廻船業や藍師中、火消組等多彩にわたる各職業者による燈籠や船絵馬等の奉納物によって構成され、庶民信仰の様相を示すものとして評価を受けている。中でも和船模型はその精巧さが高く評価されており、寛政八年奉納の和船模型の説明には「日本で最もすぐれた模型のひとつ」と記されている。

また、本調査の中では従来建立経緯が不明であった高燈籠についても、瀬戸内海歴史民俗資料館蔵の古文書によって、建設にあたり金三千両(うち千三十六両は寒川郡中の寄附)を集めた

ことが分かるなど、金刀比羅宮の信仰史を解明するうえで意義の大きい調査事業であった。

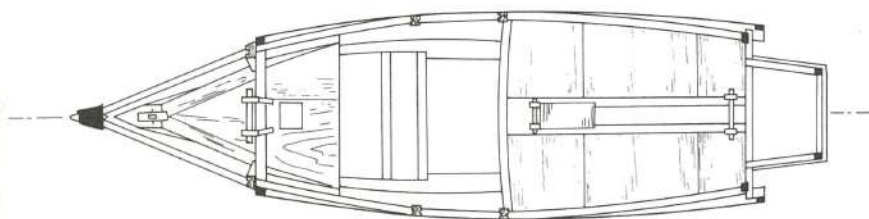
余談だが、かつて大学生の筆者が山梨県の集落で調査を行った際、金刀比羅宮への代参講(講員でお金を出し合って代表の方にお参りしてもらう方法)が行われていたことを聞いた。昔は歩いて金刀比羅宮まで参詣したことが思い出として話され、未だ訪れたことがなかった金刀比羅宮に思いを馳せた。

精密な和船模型の奉納者、三千両もの大金集めに奔走した高燈籠建設発起人、山梨から琴平まで歩いて参詣した講員。今でも金刀比羅宮では県外ナンバーの車が並ぶ。庶民信仰史はこれからも続くだろう。(佐々木 涼成)



底左 寛政八丙辰年六月吉日
カワラ 奉獻御寶前
大坂西横堀 富田屋吉左衛門手船
棟梁 同上敷屋場
金毘羅丸(横書) 海部屋市左衛門
金比羅丸船頭悦蔵

◆項立の前半にだけ菱垣をつけた表菱垣廻船金毘羅丸。日本でも最もすぐれた模型のひとつ。寛政8年奉納。全長277.8cm、710石積



日本観光文化研究所編 1982『金毘羅庶民信仰資料集』第三巻 金刀比羅宮社務所発行より抜粋

令和7年2月10日発行 香川県文化財保護協会
(香川県教育委員会事務局生涯学習・文化財課内)
〒760-8582 高松市天神前6番1号
TEL:087-832-3786 FAX:087-831-1912
E-mail:shogaigakushu@pref.kagawa.lg.jp
印刷:株式会社 太陽社